

112 学年度第一学期ユーラシア財団 (from Asia) 国際講座
「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」シリーズ講座 (14)
テーマ：与謝野晶子における中国と台湾

太田 登 教授 (第十四講座 / 要約)
2023. 12. 14

1. 与謝野晶子 (1878-1942) : 国際的な視野をもった文学者と思想家

日本の大阪府堺市で生まれた老舗和菓子屋「駿河屋」の三女。本名は鳳晶で、ペンネームには鳳小舟、鳳晶子などがあります。彼女は日本の女性古典詩人、作家、教育者、平和主義者、社会改革家であり、情熱的な和歌人でもあります。彼女の最初の詩集『みだれ髪』(1901)は「明星」ロマン主義を刺激し、石川啄木、北原白秋、若山牧水など、明治時代の若手文学者に大きな影響を与えました。代表的な詩集には『春泥集』(1911)、『夏より秋へ』(1914)、『心の遠景』(1928)があります。また、古典文学作品『源氏物語』の現代語訳や、女性や教育に関する多くの評論集も残しています。小説家の森鷗外(1862-1922)は、「晶子さんは何事にも人真似をしない。個性がいつも確かに認められる」と述べ、作家、詩人、翻訳家の上田敏(1874-1916)は、「日本女詩人の第一人、後世は必らず晶子夫人を以て明治の光栄の一とするだらう」と述べています。

2. 与謝野晶子と「台湾愛国婦人」

「台湾愛国婦人」は、愛国婦人会の台湾支部(台中)の機関誌で、1908年10月に創刊され、1916年3月に終刊する間に、全88巻が発行された。晶子は短歌336首、詩2篇、小説4篇、評論・感想3篇、古典の現代語訳3篇というように多数の作品を1911年9月から1916年3月までの長期間にわたり寄稿し、「台湾愛国婦人」の発展に大きく貢献した。

例えば、詩作「飛行機」(1913年11月)と「酒場の一夜」(1913年12月)は、彼女がフランスの首都パリ、モンマルトル地区での観察に基づいて創作された作品です。1912年5月から10月まで、彼女は日本を出発し、シベリア鉄道を経由し、その後船でパリに到着し、ヨーロッパの異文化を体験しました。

彼女は日本の読者だけでなく、台湾の多くの女性読者にも、彼女のクロスカルチャーな経験から得た感情を伝えました。

3. 与謝野晶子と中国

1928年5月から6月にかけて、晶子は夫の寛と共に中国東北部（満州国）を旅行しました。彼女は1928年6月4日に奉天（現在の瀋陽）で発生した張作霖爆破死事件を目撃し、田中義一（1864-1929）内閣の山東出兵に反対しました。彼女は元々世界の平和主義者であり、「アジア共同体」の提唱者でした。中国の作家である周作人（1885-1967）による北京大学の「新青年」誌での紹介や、郭沫若（1892-1978）、胡適（1891-1962）などの関心を受けました。太田教授は、与謝野晶子が多くの国際関係の変遷を経て、最終的に日本主義の提唱者となったことを指摘しています。

中国語要旨まとめ 徐興慶

日本語翻訳 陳順益

2023.12.21